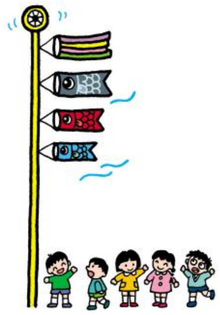
神根東小だより

川口市立神根東小学校
令和 ４年 ５月 ２日
児童数 １９９名

川口市大字石神 1440　℡048-295-1817　http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/kaminehigashi-e/

目指す学校像「あいさつと笑顔があふれ、保護者から信頼され、地域と共に歩む学校」



心を込めて　ていねいに育てます

校長　佐々木　小百合

「夏も近づく八十八夜……　♪」５月２日頃が八十八夜です。立春から八十八日目、農作業の節目とされた日です。このような農作業を暦に読み込むことによって日本の作物栽培は成り立ってきました。八十八という言葉は「米」という文字を分解した数字で、八十八歳の祝いを米寿と言ったり、稲が実るまでに八十八回もの手間をかけているという意味でも使われたりします。昔はこの日が種まきや茶摘みの目安とされていました。種まきとは米の稲モミを田んぼに直まきすることです。

職員玄関を入った廊下の掲示板にも記事が掲示されていますが、神根東小は１０年以上にわたり校内にある田んぼで５年生の児童が総合的な学習の時間に稲作を体験しています。今年度もゲストティーチャーとしてPTA会長様にご指導・ご協力を得ながら学習を進めていく予定です。

稲が種から米になるまでには、代かき、田植え、水やり、稲刈り、乾燥、脱穀、精米など、たくさんの工程を経ています。私たちが日々主食として食べている米になるまで実に多くの人の手と手間がかかっているのです。今年の５年生にもぜひ日頃のお世話からがんばり、大事に育ててほしいと思います。

食事をする前には「いただきます」、そして食後には「ご馳走様でした」のあいさつをしますが、たくさんの手間がかかって自分の口に入ることを考え、食べ物を大事にしていく心構えをもちたいものです。食品を扱う職業や商店、給食を作ってくれている調理員さん、各家庭で食事を作ってくれる方（お母さん・お父さん・おばあちゃんなど）にも感謝の気持ちをもつことも大切です。

『多くの人の手と手間をかけて』育てていくのは、子ども達の教育もまさしくそれにあてはまります。子ども達は、学校で毎日新しい学習や体験をしています。新しい文章に接し、未知の問題に取り組み、友達との交流を深め、時にはトラブルに巻き込まれ、喜びや充実感や達成感を感じ、時には悔しい思いを感じて生活しています。集団の中で 我慢する場面があったり、友達との折り合いの付け方を学んだりもします。神根東小は教職員がチームとなり、どの学年学級も全教職員で育てていきます。心を込めてていねいに育てていきます。紆余曲折することもあるかもしれません。また、将来こうあってほしいとの期待があり、時には厳しく指導をすることもあるかもしれません。ただ、『全ては神根東っ子のために』という思いは間違いありません。学力・徳力・体力を確実に育てていくには、学校の教師はもちろんですが、保護者の皆様や地域の皆様のご理解・ご支援もいただくことも多くあると存じます。学校・家庭・地域が協力して子ども達の諸能力を伸長させていきたいものです。学校も全教職員でその責を果たせるよう頑張ります！保護者の皆様、地域の皆様、引き続きよろしくお願い申し上げます。

毎月２１日は「ふれあいデー」

毎月２１日は、埼玉県内の小中高等学校及び特別支援学校が、原則として、教職員を定時退勤させるための体制を取ります。

<絆を深める３つの「ふれあい」>　○家族や仲間との時間を大切に！（家族・仲間とのふれあい）
○児童・生徒と向き合います！（児童・生徒とのふれあい）　○　地域で活動します！（地域とのふれあい）

教職員のワーク・ライフ・バランスの確立で教育の向上を目指す取組です。この日は神根東小も定時退勤に取り組みますので、放課後の電話対応も定時までとなります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。